人間国宝　武雄市長

中島 宏×小松 政　特別対談

陶芸に革命を起こした「古武雄（こだけお）」

KO DAKE O

中島 宏
１９４１年、西川登町弓野生まれ。６９年に弓野古窯跡に窯を築き、独立する。青磁に取り組み、「中島青磁」と呼ばれる独創的な作品は高い評価を受ける。平成 19 年重要無形文化財保持者（人間国宝）となる。

武雄の自然や風土色に拘った作品の数々は、「中島青磁」「中島ブルー」と言われ、大変人気が高い。

応接間にかかる掛け軸に書かれた「而今」（じこん）の文字は、今を大事にして生きていきたいという中島氏の思いが表れる。

〈市長〉
今回、武雄市図書館・歴史資料館で古武雄展が開催されますが、先生の今のお気持ちは？

〈中島〉
「古武雄」とは、江戸時代に旧武雄領でのみ焼かれた作品を指しますが、市民の認知度はまだまだ低いと感じています。この企画展は、素晴らしい芸術性を持つ古武雄について、市民に周知する良い機会になるでしょう。
実際に見たらきっと、古武雄の魅力に気づくはずです。

武雄のやきものは宝の山

〈市長〉
先生が古武雄に興味を持たれたきっかけは？

〈中島〉
私は若い頃から周辺の古い窯に出掛けて陶片を集めるのが趣味で、それをきっかけに古武雄に興味を持ちました。
今でこそ古武雄として専門家にも認識が広まりつつありますが、それまではほとんどが古唐津として扱われていました。本当は武雄で焼かれたやきものなのに、他の地名がついて流通していたというのは非常に悔しいことです。
私は武雄のやきものや、その歴史に誇りを持って欲しいと思って古武雄という名を提唱しています。

江戸のモダニズム

〈市長〉
先生は古武雄を「江戸のモダニズム」とも表現されていますが、これはどのような意味ですか？

〈中島〉
この表現は別の博物館で古武雄を展示した時に、企画展のサブタイトルとして考えたものですが、自分でも非常に気に入っているんです。
「江戸のモダニズム」という表現からもわかるように、古武雄はとにかくモダン＝現代的だったのです。
例えば古武雄は、1点も同じ模様がないほどオリジナリティに溢れています。というのも、当時有田など近隣で焼かれていたやきものはほとんどが注文品で、型が決まっていました。
しかし古武雄は注文品としてつくられたわけではなく、作家の自由な発想で作陶されたと考えます。結果、自由で個性的な、アート性の高い作品が生まれたのです。

陶芸界の伊藤若冲

〈市長〉
あまり芸術に興味を持たない人が古武雄を見ても楽しめますか？

〈中島〉
楽しめるでしょう。例えば外国人を例に挙げると、同じ陶器でも古唐津には全く興味を示さない人も、初めて古武雄を見て、「なんてモダンだ！」と感動し、いつまでも眺めています。
古武雄には無限の自由があり、まるで「陶芸界の伊藤若冲」のようなものだと思っています。若冲が絵師としてそうであったように、革新的で個性的な芸術作品は年齢、国籍を問わず、人を魅了します。古武雄はその可能性を秘めていると思います。

武雄に誇りと個性を

〈市長〉
今回の古武雄展にどんなことを期待しますか？

〈中島〉
古武雄をきっかけに、市民の方が武雄に誇りを持つようになればと思います。
特に窯業関係の方には、古武雄の魅力を再発見してもらい、武雄に生まれた陶工としての誇りを持って欲しいですね。

〈市長〉
最後に、武雄市の未来に一言お願いします。

〈中島〉
文化とは「化けること」と考えます。同じ材料に手を加えることで、いかに化けさせるかが重要です。
やきものだけでなく、武雄の文化全体で豊富な個性を表現していくことが何より重要で、今後更に発展していくことを願います。

【写真】9月 15 日 弓野窯応接間にて撮影